



ちゅうおう 小倉中央小学校通信

11月7日（火）発行 学力特集号

目指す児童像

- ☆自ら学び考える子ども
- ☆心身ともにたくましく健康な子ども
- ☆礼儀正しい子ども

発行所 北九州市立小倉中央小学校 小倉北区堺町二丁目4番1号 TEL 521-1079 校長 高橋秀明

実りの秋。連合音楽会、陸上記録会等の行事を乗り越え、子どもたちは大きく成長していることがよくわかります。

さて、今回の学校通信「ちゅうおう」は、4月に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果と、今後本校が重点的に取り組む内容についてお知らせします。

本平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

1. 教科に関する調査結果の概要

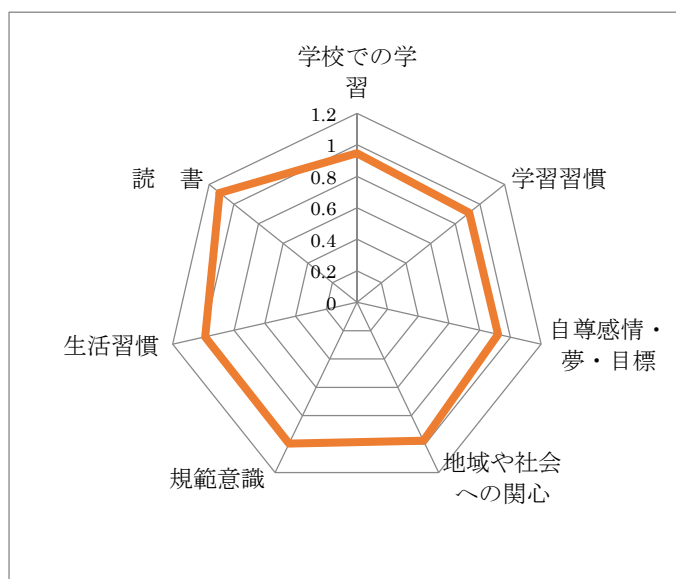
国語A	全体的な傾向や特徴など	「読むこと」や「話す・聞くこと」に関する問題において、全国平均正答率を下回っている。漢字の読み書きなど短答式の問題に関して、正答率が低く、無回答率も高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	高学年で習った漢字を正しく読んだり書いたりする問題の正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	目的や意図に応じた話の構成を考える問題は、全国平均を上回っている。登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える問題の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	スピーチ原稿や話し合いの文章の内容を読み取る問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、必要な内容を整理して記述する問題は、正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	足し算やかけ算などの簡単な計算においては、全国平均を上回っている。数量や統計を表やグラフに表す問題に関して、正答率が低く、無回答率も高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	小数と整数の足し算や問題や正五角形の図形に関する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	資料を表やグラフに整理する問題に関して、正答率が低かった。。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	問題から考え方を理解し、答えを導く仕方や、平均を求め方を判断する正答率が低かった。無回答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	文章問題に示された二つの数量の関係を考え、そのきまりを記述する問題の正答率が低かった。	

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・読書が好きな児童は、昨年度に引き続き全国平均を上回っており、朝の読書活動や音読の宿題の成果が表れている。 ・家で学校の宿題をしたり、予習をしたりする児童は、全国平均を上回っている。しかし、平日1日当たりの放課後学習時間が1時間以上の児童の割合は全国平均より少なく、家庭学習の量的な課題が考えられる。 ・外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う児童の割合は全国平均を大きく上回っている。しかし、自分のよさを認めるセルフイメージが低い。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組 (全校で・学年で・学校で)

- ・朝の読書活動や音読の宿題、全校一斉音読等の取組は今後も全校で継続して実施する。
- ・基礎的・基本的な学力を高めるため、学習補充特設時間を継続して実施する。
- ・各教科の学習において、友達と話し合う活動を積極的に取り入れ、主体的・対話的な不快学級につながるよう授業の改善を図る。



② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「家庭学習チャレンジハンドブック (活用編)」を積極的に活用し、宿題以外の勉強時間の増加 (自主学習) への意欲を高める。
- ・参考になる友達の良い家庭学習ノートなどを掲示し、家庭学習の仕方を具体的に指導する。
- ・学校通信・学級通信等を通じて、家庭学習の大切さを発信していく。

4. その他

学力の定着のためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、連携して子どもたちを育てることが必要です。学校では諸活動の見直しや授業の改善を図ります。「子どもひまわり学習塾」、「授業力向上ステップアップ事業」の学力向上推進教員とも連携して、更なる学力向上を目指します。

ご家庭でも、家庭学習の大切さをご指導いただき、ご協力よろしく申し上げます。

